

## 1. 改革工程表の改定に向けた進め方（各WGを中心にした議論）

骨太方針2023に基づき、各WGにおいて以下の議論を行い、年末までに改革工程表を策定する。

### ●骨太方針2023を踏まえた主要分野の重要課題に関する議論

- ・今年前半のWGの議論や骨太方針2023を踏まえ、各主要分野における重要課題を抽出した上で、  
一将来の人口動態をバックキャストし、持続的かつ質の高い制度・システムの構築  
一政策横断的に予算・税制・制度改革等をパッケージにした取組の具体化  
に向けて、各WGで、エビデンスベースでメリハリのある議論を行う。

### ●改革工程表2022の評価に関する議論

- ・改革工程表2022に盛り込まれた政策目標、KPI、各施策の達成状況の評価を行う（別添1）。
- ・KPIの進捗を確認し、進捗に課題が見られるものについては、施策の改善やより適切なKPIへの見直しの検討を進める。

### ●上記の議論を踏まえた改革工程表2023の策定

- ・上記の議論を踏まえ、適切なKPI・改革工程（2024年度から2025年度までの取組及び2026年度以降の取組を具体的に記載）を設定し、改革工程表2023を策定する（別添2）。

#### ≪KPIの設定に関する方針≫

##### (1) 定量的なKPIであること

取組の進捗、成果を、取組主体の主観でなく客観的に評価するため、定量的なKPIである必要。なお、定量的なKPIの設定が難しい場合は、可能な限り指標の推移として目標とする傾向（増加、減少等）を記載。

##### (2) 実績値が更新可能なKPIであること

取組の進捗、成果について毎年度、評価・点検を行う。適切な評価・点検に基づきPDCAサイクルを回していくためには、可能な限り毎年度実績値が更新されるKPIである必要。

##### (3) EBPMを視野に入れること

KPIの評価・点検は、可能な限りEBPMの取組につなげること。

## 検討課題

### 時代の変化に対応した教育の質の向上

#### <背景>

少子化や昨今の生成AIを含むデジタル技術等の急速な進展に伴い、有力な天然資源に乏しい我が国にとって、持続可能な経済社会を支える人材創出・社会変革に向けた教育の質の向上は喫緊の課題。多様性確保や格差防止等に留意しつつ、海外との比較等も踏まえながら、我が国の実態に即した客観的な根拠を重視したPDCAサイクルに基づく取組を総合的に推進していくことが必要である。

#### <WGでの論点>

- ・これからの時代に求められる資質能力の向上のために必要な公教育の再生や高等教育の在り方・推進方策
  - ▶GIGAスクール構想を含む教育の情報化を通じた教育改革
  - ▶急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方

## 検討課題

### 研究力の総合的な強化

#### <背景>

我が国では、研究力を代表する指標の一つとされる被引用数の多い論文数等において、依然として相対的な地位の低下傾向が続いているところ。研究力の総合的な強化に向けては、従来の論文指標に過度に依拠せず、より実質的・多角的な研究評価の観点により、社会的インパクトの見える化・向上を促進する工夫も図りながら、第6期科学技術・イノベーション基本計画の進捗状況を点検しつつ、次期基本計画策定に向けた議論につなげていくことが必要である。

#### <WGでの論点>

- ・我が国の研究力低迷の要因分析と研究力の多角的な分析・評価の在り方
- ・研究力の総合的な強化に向けた推進方策
  - ▶研究環境の改善・充実（研究大学群のガバナンス改革やオープンサイエンスの推進を含む）等